



せいひ会だより

2008年(平成20年)
9月1日発行
<第101号>
社会福祉法人せいひ会
<http://www.seihikai.jp/>



夏空に広がる入道雲を
じへっと、じへっと眺めていると
いろんな物に見えてきた

ソフトクリーム？ あれは、ドラゴン。あっちには、ミッキーマウスが浮んでる
想像力を働かせ、空の4次元ポケットを探る遊びも楽しきかな、かな？

夜に広がる火の子たち
燃えては消えて 華やかに。
耳に残る夏の音
そろそろ秋の声が聞こえる

8月のできごと

- 1日 ~ 風和の里3周年展示会 素敵な作品が並びました。
- 9日 誕生会(通所・元亀の里) カラオケ盛り上りましたね。
- 16日 西彼町花火大会 綺麗な花火★
- 23日 夕涼み会(風和の里) ヨーヨー懐かしかった。
- 24日 夕涼み会(GH) BBQは最高!!
- 31日 素麺流し(風和の里) え？トマト流れてきたよ。

9月の行事

- 13日 誕生会(通所・元亀の里)
- 14日 敬老会(中山地区・せいひ会合同)
- 15日 敬老会(風和の里・GH)
- 21日 収穫祭(GH)
- 9月は大イベント敬老会があります。
皆さんぜひご参加ください！！
書道・陶芸もいつも通り開催です。

☆お誕生日おめでとうございます☆



大正13年、長崎市に9人姉妹の5女として生まれた。両親は床屋を営み、田中氏も手伝いをしながら育った。子供の頃は手毬や人形で遊んでいたが、「姉妹が多くたけん、よう喧嘩ばっかいしよった」そうだ。しかし、「どっちかというと、おとなしか子供やったと思う」と子供の頃を懐かしんでおられた。

24歳頃に結婚し、1男2女に恵まれる。両親と同じくご主人と床屋を営み、終戦後西彼町に移り住めた。苦労したことは、「住み慣れんとこに来たけん知らん人ばっかいやったし、床屋ば立ち上げるとにお金にも困った」こと。しかし、散髪代として野菜や魚、なかには着物などを持って来る人もおり、当時は食べ物にはそれほど困った覚えがないと話されていた。

話を伺った中で、「昔はある程度融通の利くことが多かったばってん、今はなんでん四角紙面になってしまって息苦しか氣のする。こいが世の中の流れやっけん仕方なかたいね。ばってん、昔が住みやすかった」と昔と今を比べられ、窮屈さに愚痴がこぼれる。

現在、元亀の里に入所されているが、今の楽しみはの問いに「特になんもなか。起きとってもきつかし、なんもしとうなか。ごろごろとくとが楽しみ。時々外に出てみたかって思うときはある」とのこと。しかし、レクリエーションで歌の時間になると楽しそうに歌われており、「歌ば歌うとは好いとる」と。床屋でラジオば流しようたけん、よう歌ば聞いて歌ったい歌ったと」と言われ、よく歌詞を覚えておられる。また、車椅子の後ろのポケットには常にハーモニカが入っており、調子の良い時にはハーモニカを吹いている。曲を吹いていると、周囲の人たちは自然と口ずさみながらハーモニカの音色に聞き入ってしまうほど。「珍しかねへ」「ハーモニカの音は懐かしか様な、なんとも言えん音やね」などの声が聞かれよう、田中氏のハーモニカは周りの人々を幸せな気持ちにしているようだ。。

いつもやんわりとした口調で話され、「歩くとでその日の調子の分かると」と、リハビリでは出来るだけ歩きたいと意欲を出される田中さんでした。

これからも、ハーモニカで私たちを和ませてください。お誕生日おめでとうございます。

Vitality Space

バイタリティースペース

「Vitality」とは、生命力・活力・活気・元気・持続力等の意味があります。せいひ会を利用される皆さんの活動にはこのバイタリティの力にあふれています。その活動を紹介するコーナーです。



元亀川口テイ



風和田中アキ



丘の家木村ムツ子



爽月中島貞子



風和田崎キマ



元亀森コウ



風和郡栄子



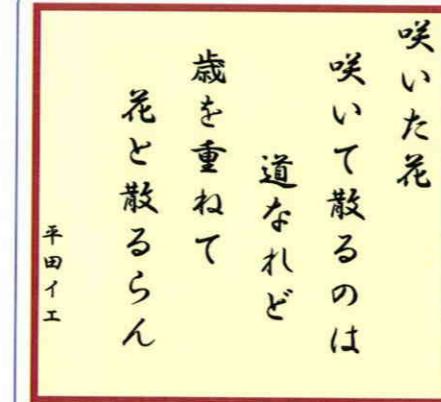
風和田坂晴子



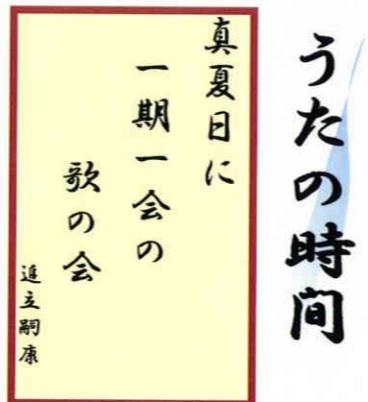
元亀佐々幸子



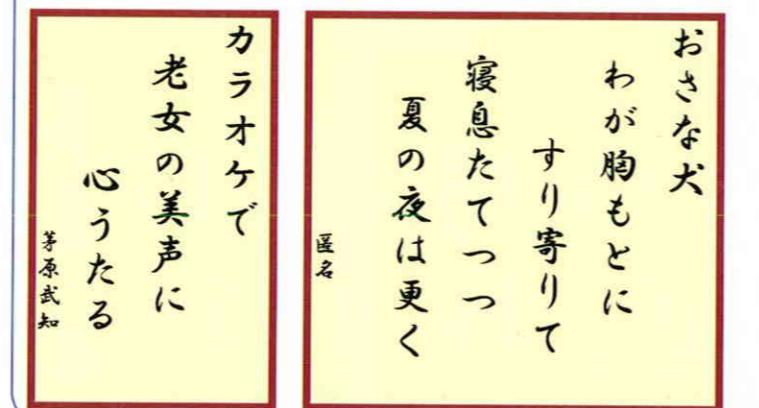
爽月森山万吉



平田イエ



近立嗣康



茅原武知



風和生花(展示会)



濱保



爽月の作品



岡明子



風和今井サヨ



爽月の作品

新★グループホーム翠風



新しくグループホーム翠風を建築中。木造、平屋建ての木の香りが心地よい建物です。そしてこれらの写真は、棟上げの様子です。午前中は、丘の方や通所、GHの利用者さんにお手伝いいただき、紅白のお餅を丸めました。

17時。次々と袋を片手に集まる人々。撒き始めたら、さへ大変!! 普段曲がらない腰も曲がちゃいました♪



夏の終わりに…



今年も皆さんの素敵な笑顔がたくさん見れた良い夏でした。GH爽月ではバーベキューにスイカ割り、ご家族と一緒に花火を楽しみ、風和の里では、力キ氷にヨーヨーすくい、色とりどりの浴衣に目移りしながら?暑い夜に賑やかな声が響き渡りました。素麺流しも一工夫。かわいいトマトが流れると皆さん必死に箸を動かしていました。西彼町の花火も夏の夜空と見た人の心に夏の余韻を残して…。



ケアマネの独り言

「もがき苦しみじたばたする姿」を何十年ぶり見た。野茂英雄氏と清原和博選手の姿だ。可能性を追求し努力し続けるその姿に私は強く感銘を受けた。いや、私だけではなく、多くの日本男児の心を引き付けたに違いない。

彼らの姿は、「いさぎよい」そんな言葉が当てはまる。この「いさぎよい」という響きに、私は「引き際の美学」を感じ、率直に「カッコいい」と感じてしまった。「カッコいい」といってもただそれだけに終わっていないのが彼らだったのだろうと思う。最近は全てにおいて選択肢が限りなくあり、その中から一生の「生きがい」を見つけ、自分が納得のいく「最後」までを全うするということはと困難なことであろう。信じた道が正しいものだったのか、その答えは自分が散る時にしかわからない答えなのかもしれない。

「カッコ悪いことは、なんとカッコいいんだろう」

「狂か愚かいぞ知らず、我ついに奔走するのみ」

昔、手にした本にあった言葉。今、彼らの姿にこの言葉を重ね、熱いものが込み上げてくる。

「最近の若っかもんは…」とは言いたくはないが、彼らの姿に映る「男の美学」を学んでほしいと思った今月でした。(敏)

《プロに見る男の美学》

避難訓練

8月8日に風和の里で行われた夜間想定避難訓練の写真です。利用者の方々も真剣に参加して下さいました。職員の数が少ない夜間帯は、職員のチームワークが大切ですね。



今年も暑苦しい八月が過ぎた。八月九日。今なお痛む古傷と消えぬ残像。戦争を知らない私たち。お年寄りの昔話に残酷なイメージが見え隠れする。聞くに堪え難いその言葉は「平和」へメッセージであり、私たちが学ぶべき教訓が詰まっている。私たちは考えなければならない。この平和な八月が永遠とめぐってくるように。(佳)